

令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名

宇和島市

(都道府県:愛媛県)

1. 当該地域の情報 (令和3年1月現在)

地域の課題	<p>本市を中心とした四国西南部の宇和島圏域は日本語教室空白地域であり、特徴としては他市町と比較して国際結婚による配偶者の割合が高いことが挙げられる。また技能実習生は増加傾向であり、それは本市だけではなく周辺自治体においても同様である。しかしながら、周辺自治体も含めて外国人の就業、社会参加、コミュニティの形成、教育などの様々な体制が整っていない。</p> <p>また、今年度本市で実施したスタートアップ講座などにおいて、参加した技能実習生雇用事業者や在住外国人からは日本語教室の開催希望が強く寄せられたほか、集う場や情報交換の場、活躍する場がないことが課題として挙げられた。</p> <p>今後増加が予想される在住外国人の生活支援においても、日本語教室が様々なハブ的存在となって展開させていく必要がある。</p>
在住外国人数 外国人比率	416人 0.57%
在留外国人の 状況	<p>【主な国籍と人数】ベトナム189人、フィリピン80人、中国76人、韓国31人、インドネシア27人、カンボジア24人、タイ14人、ミャンマー5人、台湾3人、朝鮮2人</p> <p>【在留資格】技能実習2号口137人、技能実習1号口84人、永住者79人、日本人の配偶者等33人、特定活動25人、定住者23人、特別永住者22人、技術・人文知識・国際業務21人、技能実習3号口19人、家族滞在5人、技能実習2号イ5人</p> <p>【滞在年数・在留期間などの状況】</p> <p>技能実習生が大半を占めており、今後も技能実習生を受け入れる企業が増加する傾向にある。</p>
在住外国人の 日本語教育の現状	<p>愛媛県国際交流協会の事業として平成14年に宇和島市において日本語ボランティア養成講座を実施。その受講生により民間団体を立ち上げて日本語教室の開講があったが、年に数回の実施のみで結果的に継続しなかった。</p> <p>現在、愛媛JASL(日本語学習支援ボランティア団体)のメンバーが個人的に松山市から週2回程度、ALT数名に日本語を教えに来ている。</p>

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	2年目			
事業の目的	<p>宇和島市を外国人が住みやすいまちにすることが最大の目的であり、在住外国人の就業や社会参加など、日本語教育のみならず教室を通じて発展的な展開を目指す。当該地域の在住外国人の拠り所として日本語教室が存在し、それをきっかけに就業や教育、社会参加や外国人コミュニティの形成など、在住外国人における様々な課題に対しても良好なアプローチを図ることも可能になるのではないかと考え、本プログラムの実施により日本語教育のみならず在住外国人が住みやすいまちづくり、多文化共生の地域づくりの実現を目的とする。</p>			
事業の概要	<p>本市を中心とした四国西南部の宇和島圏域は日本語教室空白地域であり、周辺自治体も含めて外国人の就業、社会参加、コミュニティの形成、教育などの様々な体制が整っていない。</p> <p>本市の在住外国人が地域社会においてストレスなく、また地域住民との良好な関係を築いて生活していくためには「日本語の習得とコミュニケーション」が重要であり必要不可欠であるが、当該地域には日本語を教える人材、ノウハウ、手段などが不足しており、継続的な日本語教室が展開できていない状況である。</p> <p>本プログラムの実施により、在住外国人のニーズ調査や教室の運営の方法、日本語教育の内容や教育プログラムの作成など具体的な手法についてアドバイザーを交えて共に協議し、ノウハウを得て、体制を構築していくなど効果的な課題解決に取り組み、教室設置及び運営など将来的に継続できるよう展開していく。</p> <p>また、宇和島市の周辺自治体にも日本語教室がない状況である。周辺自治体へも波及、展開できるようなスキームにしていく。</p>			
事業の対象期間	令和2年4月～令和3年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	<p>本プログラム1カ年目である令和元年度は、市内勉強会を開催し多文化共生社会や地域日本語教室の必要性について共通認識を図り、情報の整理と市が今後目指す姿を共有する機会を設けた。また、市内在住の全外国人へアンケート調査を実施し、日本語教室だけではなく集まる場ややりたいことのニーズを収集することができた。回答率は約30%と予想よりも多く、関心が高いことも把握できた。さらに、全3回の講座開催により意識啓発や人材発掘に取り組むことができた。</p>			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	高橋 志野	愛媛大学国際連携推進機構	准教授	指導者等の人材育成、研修企画実施
	深田 絵里	愛媛大学国際連携推進機構	非常勤講師	指導者等の人材育成、研修企画実施
	村上 将司	宇和島市役所商工観光課	主任	学習ニーズの把握、住民への意識啓発
	藤石 桃花	宇和島市役所商工観光課	主事	学習ニーズの把握、住民への意識啓発
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	山田 泉	元法政大学	教授	(継続)新規(2年目)
	犬飼 康弘	公益財団法人ひろしま国際センター	日本語常勤講師	(継続)新規(2年目)
	御館 久里恵	鳥取大学教育支援・国際交流推進機構国際交流センター	准教授	(継続)新規(2年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	<p>日本語教育に関する助言等、講座運営に関する助言等:新矢 麻紀子(大阪産業大学)、向井 留実子(東京大学)、棚田 洋平(一般社団法人部落解放・人権研究所) →これまでの経験や他地域の事例等を用い、アドバイザーとの相談も踏まえながら今年度の取り組みや日本語教育、運営について助言を受ける。</p> <p>生活に関わる日本語教室の内容に関する助言等:伊藤 優子(愛媛県国際交流協会) →愛媛県内の外国人の動向、統計等を把握し、県内の日本語教室や生活相談の状況などを踏まえた助言、展開の方策などの助言を受ける。</p> <p>日本語教育検討の会議体:金瀬 聡(宇和島市教育委員会)、水野 宏一(宇和島市産業経済部商工観光課) →継続的かつ発展的な体制を構築する必要があり、市関係各課を参画させる。市長部局だけではなく教育委員会部局も参画させ、講座や教室への参画、貸館の協力、情報共有を図る。</p>		
	<p>The diagram shows a box for the City Office (事務局) with the following activities: Hearing implementation, preparation and implementation of seminars, and support for residents. This box is connected by a double-headed arrow labeled '連携、相談' (Cooperation, Consultation) to a box for '連携する各種団体' (Partner Organizations), which includes: Introduction of cases from other cities, specific advice on implementation systems, enlightenment for residents, and establishment of systems and classrooms.</p>		
所属(担当課)	担当者名	職名	
大阪産業大学	新矢 麻紀子	国際学部 教授	
東京大学	向井 留実子	次世代人文学開発センター 教授	
一般社団法人部落解放・人権研究所	棚田 洋平	事務局長	
公益財団法人愛媛県国際交流協会	伊藤 優子	副課長	
宇和島市教育委員会	金瀬 聡	教育長	
宇和島市産業経済部商工観光課	水野 宏一	課長	

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制	<p>全体コーディネート:高橋 志野(愛媛大学国際連携推進機構)、深田 絵里(愛媛大学国際連携推進機構) →経験や知見をいただきながら事務局と連携し、担当コーディネーターとしてプログラム展開を行う。知見を持ったコーディネーターを配置することで、日本語教室設置に向けた事業計画や展開方法などについて効果的に取り組んでいく。</p> <p>在住外国人の状況把握、連絡調整:申 繁時(カトリック宇和島教会)、王 姿研(宇和島市役所吉田支所) →市内在住外国人における拠り所の一つとして機能しており、生活実態、ニーズ調査及び講座への参加連絡等、本プログラムの橋渡し役として協力していただくことでスムーズな事業実施が可能となる。フォローアップも対応していただき、次に繋げる体制をつくる。</p> <p>日本語ボランティアの発掘、育成:池田 多津子(吉田町国際交流協会)、川口 晴代(NPO法人ピースメーカーUWAJIMA)、瀬川 みどり(愛媛SGGクラブ) →情報共有を図る勉強会からボランティア養成講座まで、メンバーの積極的な参加のほか、多方面への呼びかけに協力していただくことで多くの参加が見込める。</p>		
	<p>The diagram shows a box for the City Office (事務局) with the role of 'Coordinator' and activities: Hearing implementation, seminar preparation, and support for residents. This box is connected by a double-headed arrow labeled '人材の発掘、協力' (Talent discovery, cooperation) to a box for '連携する各種団体' (Partner Organizations), which includes: Ehime International Exchange Association, Gima International Exchange Association, Catholic Church of Uwajima, and Peace Maker Uwajima. A large downward arrow points from this box to a final box: '技能実習生受入れ事業所への訪問、ヒアリング 市民への啓発、関心のある方の参画促進' (Visiting skill practice acceptance facilities, hearing, enlightenment for citizens, and promoting participation of interested parties).</p>		
組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
愛媛大学	国際連携推進機構	准教授	高橋 志野
愛媛大学	国際連携推進機構	講師	深田 絵里
-	-	-	岩城 美保
吉田町国際交流協会	-	会長	池田 多津子
NPO法人ピースメーカーUWAJIMA	-	代表	川口 晴代
カトリック宇和島教会	-	-	申 繁時
宇和島市役所吉田支所	総務係	国際交流員	王 姿研
愛媛SGGクラブ	宇和島支部	代表	瀬川 みどり

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和2年 4月			
令和2年 5月	・宇和島市としての外国人向け公式情報提供媒体の運用スタート。 (Facebook グループ機能を活用)		
令和2年 6月	・アドバイザー、コーディネーター等を交えたキックオフ会議の開催 ・事業計画書の作成	・キックオフ会議の連絡調整 ・事業計画書の作成	※web会議 山田シニアアドバイザー(1回) 犬飼アドバイザー(1回) 御館アドバイザー(1回)
令和2年 7月	・技能実習生受入れ事業所への訪問及びヒアリング	・事業所との日程調整 ・ヒアリング内容の検討 ・ヒアリングの実施(7社)	
令和2年 8月	・日本語教室試行に向けたミーティング ・日本語教室の名前決定(日本語教室 ココりん うわじま)	・情報の整理 ・ミーティングのための連絡調整 ・ミーティングの実施、運営	
令和2年 9月	・日本語学習サポーターの発掘、育成 ・日本語教室試行及びふりかえり	・日本語学習サポーターの発掘、情報収集 ・教室の運営	
令和2年 10月	・日本語学習サポーターの発掘、育成 ・日本語教室試行及びふりかえり	・日本語学習サポーターの発掘、情報収集 ・教室の運営	
令和2年 11月	・日本語学習サポーターの発掘、育成 ・日本語教室試行及びふりかえり	・日本語学習サポーターの発掘、情報収集 ・教室の運営	
令和2年 12月	・次年度以降の事業検討 ・アドバイザー、コーディネーター会議	・日本語教育、受入体制プログラムの内容検討	※web会議 山田シニアアドバイザー(1回) 犬飼アドバイザー(1回) 御館アドバイザー(1回)
令和3年 1月	・次年度以降の事業検討	・日本語教室、プログラムの内容検討	
令和3年 2月	・次年度実施に向けた事業展開の検討、協議 ・アドバイザー、コーディネーター会議 ・日本語ボランティアや外国人住民を交えたプラン検討	・次年度事業案の作成 ・日本語教室、プログラムの内容検討	※web会議 山田シニアアドバイザー(1回) 犬飼アドバイザー(1回) 御館アドバイザー(1回)
令和3年 3月	・次年度実施に向けた事業展開の検討、協議 ・オンライン日本語教室試行 ・技能実習生受入れ事業所への訪問及びヒアリング ・今年度の振り返り	・次年度事業案の作成 ・オンライン教室の運営 ・報告書の作成	

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	ココりん うわじま						
外国人参加者について	[国籍]ベトナム、フィリピン、中国、カンボジア、タイ [属性]技能実習生、日本人の配偶者	参加者数 (内 外国人数)	受講者26名(外国人) 支援者51名(日本語ボランティア)				
開催時間数	総時間 5.5 時間	内訳 1.5 時間 × 3回(教室) 1 時間 × 1回(オンライン)					
目標	生活に必要な日本語を楽しく学べる場所 外国人同士で集まれる、日本人と交流ができる場所 気軽に立ち寄れる場所						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2020年9月27日(日) 13:00~14:30	1.5	ホリバタ (中央公民館)	33	かいもの	・自己紹介 ・私たちの買い物について ・買い物で目にする日本語	日本語ボランティア20名
2	2020年10月25日(日) 13:00~14:30	1.5	ホリバタ (中央公民館)	26	うわじまのこと	・アイスペイク ・うわじまのおすすめスポット ・お出かけに関する日本語	日本語ボランティア16名
3	2020年11月29日(日) 13:00~14:30	1.5	ホリバタ (中央公民館)	8	わたしたちのおしょうがつ	・アイスペイク ・自分の国のお正月 ・年賀状を書こう	日本語ボランティア7名
4	2021年3月8日(月) 19:00~20:00	1	オンライン	3	Zoomでお話しよう	・基本的なZoomの使い方講習会(外国人参加者不在のため)	日本語ボランティア3名
5							
6							
7							
8							
9							
10							

【主な活動】



第1回日本語教室
かいもの



第2回日本語教室
うわじまのこと



第4回日本語教室
Zoomでお話しよう

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	<p>愛媛SGGクラブをはじめとする日本語ボランティアの方など、日本語学習支援者の参加は多数ある。しかし、仕事や家庭による都合等もあり、外国人参加者は少ない状況である。</p> <p>その対応策として、配偶者や永住者、技能実習生など、在留資格や環境の異なる外国人のニーズを正確に把握することが必要であると考えている。その上で、テーマを設定したり、開催時間を考慮したり、また、教室だけではなく交流の機会を創るなど、外国人の方の「日常」となるような取組を展開したいと考えている。次年度以降はそれらをまとめた年間計画を作成し、教室の内容を分かりやすく提示した上で、状況に合わせて柔軟に変更しながら行きたくするような教室づくりを目指したい。</p>
--------------------	--

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語指導者養成講座	2020年8月21日(金) 14:00～15:30	9月から実施する日本語教室試行にあたり、その前段階として日本語ボランティアに向けた講座を開催。現在の宇和島に在住する外国人の状況について話したほか、「どんな日本語教室にしたいか」というテーマでグループワークを実施した。そのなかで、日本語教室を「国籍関係なく集まれる場所、心がリンクする場所」にしたいという意味を込めて、「ココりんうわじま」と名付けた。(参加者9名)
ココりんうわじま 全体振り返りと次年度の計画についての会議	2021年2月28日(日) 13:00～14:30(1.5時間)	今年度は教室のテーマを開催前に決め、その都度参加者にお知らせしている状況であった。しかし、それにより参加のめどが立たないことや、1年間の流れが見えないことなどから、年間計画を作ってほしいとの声に参加者から挙がった。そこで、これまでに参加したことのある日本語ボランティアや在住外国人に集まってもらい、次年度の教室計画を作成した。
外国人向け公式情報提供媒体 Facebookグループの運用開始	2020年5月～	市からのお知らせや災害情報、日本語教室の案内をやさしい日本語に変えて発信するために運用を開始。宇和島市在住外国人や技能実習生受入事業所、日本語ボランティアなどの関係機関のみが参加できる仕組みとなっている。また、市からの一方的な情報発信だけではなく、外国人からの意見の拾い上げも可能である。技能実習生受入事業所等を回り、Facebookグループの周知に取り組んでいる。
技能実習生受入れ事業所へのヒアリング	2020年7月 2021年3月	本市の半数を占める技能実習生の受入事業所を回りヒアリングを実施した。実習生の受入状況や職場での様子、宿舍の環境などについて話を伺った。その中でも、日本語教室を開催してほしいという要望が多くあり、事業所としても日本語の上達によって仕事の幅が広がるため、積極的に参加を促したいとのことだった。その反面、新型コロナウイルスによる影響や、他事業所との交流の不安などの声も挙がった。定期的にヒアリングを実施し、意見を拾い上げながら試行錯誤していきたい。

【主な活動】



日本語指導者養成講座



日本語指導者養成講座



ココりんうわじま 全体振り返りと次年度の計画について

5. 今年度事業全体について

進捗状況	新型コロナウイルスの影響により先進地視察等は実施できなかったが、事業については概ね計画通り実施することができた。連絡や情報共有については適宜メールにて行い、コーディネーター間のミーティングはWeb会議なども活用して実施した。
事業推進にあたり問題点と対応策	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語教室試行として数回開催したが、外国人参加者数がまだ少ないのが現状である。参加したくなるような仕組みづくりや、来て良かったと思えるメリットが感じられるような工夫をしたい。 ○外国人同士が繋がれる、日本人とも交流できる教室づくりを目指す。現在は、一つのテーマについて全体やグループで話す時間は設けているが、生活の中での相談や雑談ができる機会を作っていない。教室終了後、そこで新たな交流が生まれるように、次年度以降は自由時間として設けたいと考える。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○宇和島市公式情報発信媒体Facebookグループの運用を開始したことにより、市からのお知らせや教室の案内だけでなく、災害情報や新型コロナウイルスの状況等をダイレクトに発信することができた。 ○技能実習生受入事業所へのヒアリングを実施したことで、日本語教室への要望や懸念点など、現場の声からニーズを収集することができた。また、日本語を学びたい技能実習生が多くいることも知り、日本語教室の必要性を改めて感じた。 ○日本語教室試行については、全4回で様々な国籍の外国人に参加していただき、教室を振り返るアンケートでは「楽しかった」という声も多く挙がった。また、日本語ボランティア養成講座においても多くの参加があり、今後の方向性を定めることができた。
地域の関係者との連携による効果	<ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターを務めていただいた愛媛大学の准教授及び講師のサポートや、そのネットワークを活用した全体的なバックアップにより年間通してスムーズな事業実施が可能となった。 ○市内の国際交流団体や理解のある技能実習生受入事業所による参加の促しや送迎などの協力により、勉強会や講座を上手に展開することができた。
コーディネーターの主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ①ニーズの調査(30H) ②体制整備のための調整(20H) ③人材育成のための調整(20H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(30H) ⑤教材作成に向けた調整(30H)
アドバイザーの主な助言	<ul style="list-style-type: none"> ○制度やシステムを整えるだけでなく、受け入れる側の意識改革が何よりも大切である。啓発は大変重要であり、多文化共生の実現には教室の関係者以外の日本人市民への周知啓発、意識醸成を行うべき。 ○市はどういった多文化共生の地域づくりを目指すのか、それをはっきりさせなければならない。 ○日本語教室は「学校」ではなく、教える側も教えられる側も対等な場として機能させる必要がある。 ○勉強するだけの日本語教室はつまらない。外国人参加者のニーズを把握したうえで、計画を組んでいく。 ○日本語ボランティアに頼るだけでは続かない。持続可能にしていくためには、市や国際交流協会などの「事務局」「後ろ盾」が必須。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人参加者の増加 ○教室内容の充実、テーマ設定 ○日本語ボランティアの発掘と育成の展開。 ○持続可能な形での教室運営について、人材面、予算面でのスキーム構築
今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> ○技能実習生受入事業所へのヒアリング調査及び日本語教室開設に関する説明と協力依頼 ○持続可能な教室運営体制の構築のため、行政の政策的位置づけ及び予算化 ○地域日本語教室の実施 ○経験豊富な地域日本語教室や、オンライン教室を実践している先進地へ視察研修することにより、コーディネーターの知見の向上やノウハウを習得。 ○情報共有や適宜相談できるよう、視察研修する先進地等の他地域との良好なネットワークの構築 ○日本人と外国人とが交流する機会の創出のため、交流イベントや情報交換会などの実施 ○日本語ボランティアの発掘及び育成のため、指導者研修や「やさしい日本語」研修の実施

本件担当 : 宇和島市産業経済部商工観光課観光係